

2017年3月28日

各位

会社名 株式会社アサツー ディ・ケイ
代表者名 代表取締役社長 植野 伸一
(東証第一部 コード番号:9747)
問合せ先 コーポレート・コミュニケーション室長 中島 香
Tel 03-6830-3855

ADK CSV Report 2017

ADK の創立 60 周年記念 CSR/CSV 活動
『ブレインタル』第1弾
銭湯で地域コミュニティを活性化
「はだかの学校」スタート！

株式会社アサツー ディ・ケイ(本社:東京都港区、代表取締役社長:植野 伸一、以下「ADK」)は、創立 60 周年を記念し、ADK 社員が広告会社ならではのスキルを活かし、社会の「課題」や日常生活の中の「悩み」に対するアイデアやソリューションを提供するサービス「ブレインタル」(www.adk.jp/csr/society/braintal/)を期間限定で開始いたしました。

昨年8月1日から、特設ウェブサイトを通じて一般から「課題」や「悩み」を募集。9月30日の締切りまでにいただいた51件の応募の中から、ブレインタルスタッフがお役に立てると判断した支援先5件を選出させていただきました。その後、ADK 社員有志の中から、「課題」解決にふさわしいメンバーを選定してプロジェクトチームを結成。依頼主の方とのディスカッションを経て企画を練りあげ、3月より順次、実施の運びとなりました。

第1弾は、銭湯で地域コミュニティ活性化を目指す『はだかの学校』プロジェクト。上野・稲荷町にある銭湯・日の出湯(東京都台東区、代表:田村祐一)と、REBIRTH PROJECT(代表:伊勢谷友介)、との協同プロジェクトで、2017年3月27日に『開校』いたしました。

開校式では、「はだかの学校」校長の田村祐一さんが登壇し、『今回のプロジェクトを発案したきっかけは、数年前、94歳の常連のお客様から、昔の上野の話を伺ったときでした。当時の話や戦時中の話など、今ではなかなか聞けないような貴重な話ばかりでした。「はだかの学校」では、そういった地域ならではの話が聞けて、コミュニティが生まれる、そんな場になればいいと思っています。そして日本中の銭湯が盛り上がってほしいと思います。』と挨拶しました。さらに開校を記念したテープカットが行われ、「はだかの学校」の校歌が入ったコンセプトムービーや「はだかの学校」理事長・伊勢谷友介さんから届いたメッセージビデオも披露され、『「はだかの学校」は人生を勉強する場所です。銭湯という場を再生させることで、地域間のコミュニケーションが増え、新しい出会いと気付きが増えることを期待しています。まずは近所にある銭湯に行ってみるところから始めてみてはいかがでしょうか。』とコメントしました。

第1回授業では、台東区浅草かつぱ橋にある老舗料理道具屋「飯田屋」6代目の飯田結太さんが講師として登壇し、集まった生徒に向けて『初めまして皆さん。僕の会社は大正元年から浅草のかつぱ橋にあり、約8000の商品が置いてあります。僕自身、料理道具が大好きで、どんなお客様のニーズにも応えられます。本日はよろしくお願ひします。』と挨拶しました。そして、「かつぱ橋の歴史や地域とのつながり」をテーマに、かつぱ橋商店街にある道具屋同士の関係性や料理道具にかける想いについて、校長の

田村祐一と対談形式の授業を行いました。

授業終了後、生徒からは「お風呂に入りながらの授業は、くつろぎながら聞けました」、「(プロジェクトをはじめて知った時)変わった企画だなと思い、好奇心で参加しましたが、楽しかったです。」などの声が上がっていました。



テープカット



授業風景



【ADKブレンタル概要】

ADKは、「コンシューマー・アクティベーション・カンパニー」として、消費者の具体的な行動を喚起し、広告主のビジネス成果に貢献することを目標に、日々アイデアやソリューションで広告主の商品やサービスを世の中に送り出し、流通させるお手伝いをしております。しかし、視野を広げてみれば、社会にはさまざまな課題があり、日ごろは広告会社とは接点のない方々や、NGO、企業、自治体などが解決策を求めています。そこで我々は、いつもはクライアントのために提供しているアイデアやソリューションによってその課題解決のお手伝いができるのではないかと、そして、もしかしたら、世の中を少しよい方向へ変えていけるのではないかと考えました。

「ブレンタル」は「ブレン」×「レンタル」の造語です。クリエイター、プランナー、マーケティング、メディア、営業など部署や肩書き問わずさまざまな分野で活躍する有志が参加し、これまで会得してきたスキルやノウハウを通常の業務から拡張し、「プロボノ」※として世の中に還元することを目指しています。

※プロボノ (Pro bono) …各分野の専門家が、職業上持っている知識・スキルや経験を活かして社会貢献するボランティア活動。スキル・ボランティア。2010年頃から日本でも注目されはじめ、社会貢献の新しいスタイルとして定着しつつあります。

「ブレンタル」は、60周年を記念し期間限定でスタートいたしました。ADK社員にとっても、社会の課題と向き合い、多くを学ぶ機会となりました。今後も、広告会社ならではのCSR/CSV活動として継続していく所存です。

本件に関するお問い合わせは下記までお願いします
コーポレート・コミュニケーション室 中島、雄鹿 [Tel: 03-6830-3855](tel:03-6830-3855)

<参考資料>



はだかの学校とは

地域に根付いた銭湯(日の出湯)を新たな学びの場として捉え、お風呂の中で授業を行う新発想のプロジェクトです。

銭湯の数は、昭和 43 年をピークに減り続けており、年々そのスピードを加速させています。廃業の理由は設備・建物の老朽化、経営者の高齢化、燃料の高騰、利用者の減少等、様々ですが、ここ 10 年で約 40%の銭湯が廃業となっています。

あらたな学びのカタチである「はだかの学校」プロジェクトをきっかけに、銭湯に近所の人々がもっと集まり、地域の交流の場になっていく。そして銭湯と地域コミュニティの活性化を図りたいと考えています



はだかの学校コンセプトムービー

動画 URL : <https://youtu.be/HcNcK7aaptw>

「はだかの学校」理事長・伊勢谷友介 ご挨拶



『「はだかの学校」は人生を勉強する場所です。老若男女が背中を流し合えば、新しいコミュニケーションが生まれます。地域において何気ない触れ合いが、実は私たちにとって重要だったことに気が付き始めているのではないのでしょうか。銭湯という場を再生させることで、地域間のコミュニケーションが増え、新しい出会いと気が付きが増えることを期待しています。「はだかの学校」は全国で、実施可能なプロジェクトです。まずは近所にある銭湯に行ってみるところから始めてみてはいかがでしょうか。』



「はだかの学校」第1回授業内容

【講師】

飯田 結太さん(老舗料理道具専門店「飯田屋」6代目)

田村 祐一(日の出湯 オーナー／「はだかの学校」校長)

【授業テーマ】 「下町で生きる道具屋と風呂屋の湯沸しトーク授業」

① 大正元年から続く、飯田屋の歴史

東京大空襲より前に開業した初代が始めたのは「建具屋」でした。時代の変遷と共に、扱う用具も変化していき、四代目ごろから「料理具」を扱うようになり、今では「料理具専門店」となりました。

② 下町にあるお店において、地元へ根付くために必要なことは？

かつば橋通りは全長 800m の間に似た様な「道具屋」が 170 店舗も立ち並び「道具屋通り」です。一見、ライバル店が立ち並び、お互いをいがみ合っているのではと思ってしまうのですが、店舗によって扱う商品が微妙に異なっており特色があります。自分の店にないものは他店を勧め、お互いを補い合う、よい関係を築いています。

③ 店舗で商品を買ってもらうことの重要性。

物販における実地店舗はなくなると言われていますが、実は通販が売上げを伸ばすと同時に、店舗での購買も高まっていることを日々実感しています。お客様によると、購入して届いてみると想像と違っていたり、使いにくさを感じる人が多いそうです。フライパンの 1 人前のサイズである直径 24cm が、たった直径が

2cm 違うだけで、2 人前のサイズになります。使う人や使う場面によって、“よい道具”というものは変わっていくものなので、実地店舗の価値はまだまだ高まるのではないかと考えています。

④ おすすめ道具の実演

りんごの皮を一瞬で剥く“りんごの皮むき器”と大根の“つま”を一瞬で作ることができる“つま一番”を実演しました。華麗な技に会場からは歓声があがりました。



はだかの学校今後の取り組みについて

『誰でも先生、誰でも生徒』を合言葉に講師・生徒ともに地域の住民を中心に参加していただけることを目指していきます。そのため、授業の内容についても、下町の地域や文化など銭湯にゆかりのあるものを中心しながら、地域のみなさんにとって有益と考えられるものであればジャンルを問わず幅広く授業にしていきます。2017 年 4 月以降も、月に1回開催予定です。

また、「はだかの学校」の参加希望者や運営をお手伝いしていただけるボランティアスタッフも募集しています。詳しくは、公式 FacebookK (<https://www.facebook.com/sento.manabi/>) をご覧ください。

▼「はだかの学校」第2回 授業

日程:2017 年 4 月 22 日(土) 講師:立川かしめ(落語家)

第3回以降は、台東区のガラス工芸会社社長、ウォーキングインストラクター、ミュージシャンなど現在調整中です。



第一回「はだかの学校」講師プロフィール

飯田屋 6 代目 飯田結太(いいたゆうた)

1984 年 9 月 17 日生まれ

台東区浅草のかっぱ橋道具街にある行列ができる料理道具店、飯田屋 6 代目。日経トレンディで連載している「かっぱ橋の料理道具番長が斬る！」が全記事ランキング 1 位を獲得。そのマニアックな料理道具の知識が話題を呼び、NHK、フジテレビ、テレビ朝日、日本テレビほか数々のメディアで取材を受ける。2016 年に出演した TBS「マツコの知らない世界」では【おろしニスト飯田】としておろし金の話で高視聴率を獲得。店に在庫する料理道具は使い勝手を確かめてから販売することを信念とし、日々料理道具を通じて料理人を応援する活動を続けている。

はだかの学校 校長 田村祐一(日の出湯オーナー／「SAVE THE 銭湯」代表)

東京蒲田にある大田黒湯温泉第二日の出湯の四代目、銭湯の跡取りとして生まれ育つ。

大学卒業後、家業である有限会社日の出湯に就職。26 歳の時に取締役役に就任。

2012 年 5 月より創業の地である浅草にある銭湯、日の出湯のマネージャーとして銭湯経営再建に着手。設備産業である温浴事業を、設備投資なしで業績回復に成功する。

銭湯のオーナーを務める傍ら、銭湯を日本の未来に残すプロジェクト『SAVE THE 銭湯!』の代表も務める。



プロジェクト参画メンバー

株式会社 REBIRTH PROJECT

(代表:伊勢谷友介)

「人類が地球に生き残るためにはどうするべきか？」という命題のもと、私たち人間がこれまでもたらした環境や社会への影響を見つめなおし、未来における生活を新たなビジネスモデルと共に創造していくために活動。

株式会社アサツ ディ・ケイ 創立 60 周年記念 CSR/CSV プロジェクト『ブレンタル』

2016 年 3 月に創立 60 周年を迎えた ADK では、社員が広告会社ならではのスキルを活かし、社会の課題や日常の悩みに対するアイデアやソリューションを無償で提供する CSR/CSV 活動『ブレンタル』を期間限定で実施している。(www.adk.jp/csr/society/braintal/)

『ブレンタル』とは、「ブレン」×「レンタル」の造語。クリエイター、プランナー、マーケッター、営業などさまざまな分野で活躍する有志が参加し、これまで会得してきたスキルやノウハウを通常の業務から拡張し、“プロボノ”として世の中に還元するプロジェクト。

株式会社マテリアル

(本社:東京都港区、代表取締役社長:東 義和)

設立:2005 年 2 月

主な事業内容:PR 事業を主軸としたマーケティングコミュニケーション業務全般/キャスティング業務
銭湯と地域コミュニティの新しい可能性に魅力を感じ、プロジェクトに参画。PR 全体を担当。